

センダイ・マガジン TAKE FREE

# aBaiNN

今のセンダイを斜めに切り取る、  
市民編集による新マガジン







c o n t e n t s

|                                |       |
|--------------------------------|-------|
| 仙臺はじめて物語 千葉富士男 .....           | 3-7   |
| わたしの一冊 ① .....                 | 8     |
| 仙台の古絵図を歩く 花井繁行 .....           | 9-11  |
| 西公園は宝の山 清水千佳・中島敏男 .....        | 12-15 |
| 仙台まち歩きマップ 竹永絵里・太宰徳夫・花井繁行 ..... | 16-17 |
| わたしの一冊 ② .....                 | 18    |
| 小説 回文団扇 湯之上龍ノ介 .....           | 19-23 |
| 三角柱の建物を訪ねる「光原社」 押野緑 .....      | 24-26 |
| わたしの一冊 ③ .....                 | 27    |
| 街の看板 竹永絵里 .....                | 28-31 |
| 伊達家忍者集団黒脛巾組と太宰治 太宰徳夫 .....     | 32-34 |
| まち歩きスナップ .....                 | 35    |
| 編集後記 .....                     | 36-37 |



# 仙臺はじめて物語

文◎千葉富士男

仙臺でよく耳にする数々の定説を、  
文献や記録を元に、仙臺はじめて物語  
として発祥をまとめてみました。  
異論反論や賛否両論も含め、  
あなたの『仙臺の常識』はいかに。

## 仙臺はじめて物語 壱 ずんだ○○○

「ずんだ」を求めて長蛇の列が出来る光景は今や仙臺の風物詩。しかしその成り立ちは、江戸時代の儀礼を重んじる武家の慣しから始まりました。毎月1日と15日に季節の食材と餅やおこわを神棚に供え、五穀豊穰、疫病に水害や地震が無き様祈願、お供えを戴く月に2回の餅食は、武家から商家、農家へと広がりました。

毎月1日と15日は餅か小豆おこわ、元旦の雑煮とあんこ餅、4日とろろ飯、7日七草粥、11日は鏡開き、14日女の年取り小豆粥、2月8日作神様はお団子、3月3日よもぎ草餅、4月8日お釈迦団子に5月5日は柏餅、6月1日歯固め餅で夏の土用は土用餅、お盆の15日ずんだ餅、8月1日八朔餅

で15日の芋名月は白団子、9月9日は赤飯食、栗名月も白団子。10月1日は刈り上げ餅、20日えびす講の餅、秋冬は胡桃にエゴマに沼えび、大根おろしに納豆餅と種類も様々。又、婚礼、出産、お食い初め、棟上げの餅まき、法事に旅立ちと、お祝いや「ハレの日」の御馳走はお餅が中心で、特に農作業の筋目に振舞われる「農はだて餅」は、豊作を願う予祝として、季節毎の山海の食材を用いたため、餅食の多様性が圧倒的に増えた要因のひとつとされ、年80日以上餅を食べたと記録に残るほど餅に彩られました。

正月雑煮の出汁は、大量に獲れた安価な食材を焼き干し保存、出汁として活用する風習は今も各地に伝わり、沿岸部で採れた鮑に蛸やハゼ、山間部は山鳥や鮎と、地域毎に雑煮の出汁は違います。

そんな旬の食材を餅と頂戴する歴史の延長に「ずんだ餅やシェイク」があります。

昨今、食材は通年出回り旬がわかりにくくなりましたが、その土地で採れる「旬のもの」は安価で栄養があり何より美味しく、自然の恵みと四季の変化を楽しく食す事が、街の歴史の継承かもしれません。



餅4種(納豆・雑煮・ずんだ・えび)

## 仙臺はじめて物語 ㊦ 炉ばた

仙台の「炉ばた」が70年の歴史に幕を下ろすと報じられたのは令和2年6月の事でした。

「炉ばたのおんちゃん」こと天江富弥（本名：富蔵）は、天賞蔵元七代目勘兵衛の三男として生を受け、高等小学校の時は投稿作文が多数入賞、仙台商業の頃は竹久夢二のファンクラブに入り、明治大学在学中に「こけし」の美を再発見し研究・蒐集の旅に出て、浅草オペラに傾倒と多趣味の芽が育まれました。

富弥は志が同じ仲間と東北郷土玩具の蒐集・研究・普及を目的に「仙台小芥子会」を結成「小芥子洞」を東一番町キネマ横丁に開店。木ぼこ探求の旅の中で「こけし」の系統を発見し昭和3年に「こけし這子の話」を出版。また日本初の童謡専門誌「おてんとさん」の創刊、南方戦線の仙台師団将兵への慰問に仙台郷土句帖を53,000部寄贈しました。

昭和8年、富弥は東京上野に「勘兵衛酒屋」を開店、高村光太郎、棟方志功、太宰治などの著名人が集う繁盛店となりました。昭和25年7月2日、本櫓丁芭蕉園東隣に「天賞と郷土料理」を提供する「炉ばた」を開店、臍眞のお客に「炉ばたのおんちゃん」と親しまれました。

大きなしゃもじで提供する様式は全国に知れ渡り「炉ばた」を名乗りたいと請われましたが、許可したのは「釧路・南部・難波」三軒のみでした。

おんちゃんは、炉蓋四戒ろさんしかいと言うお客様の心得「他座献酬」「大声歌唱」「席外問答」「乱酔暴論」を制定。感染症禍の現代に生きる私達への金言に聞こえます。

令和2年8月に再開した「炉ばた」は、郷土料理と地酒でもてなす「こころ」は変わりません。帰りしなの「おみょうにぢ おしずかに」という仙台弁は、往時の「炉ばたのおんちゃん」が見守っているかのよう。



「炉ばたのおんちゃん」こと天江富弥

## 仙臺はじめて物語 ㊧ 楽都仙台

花京院の社会館は戦災を逃れ米軍に接收、キャンプ仙台（川内）の将校クラブとなり、1953年に米兵慰問で来日したルイ・アームストロングがジャズを演奏。榴岡のキャンプ・ファウラーに隣接する梅林は米軍兵の宿舎から将校クラブとなり、その他のキャンプ・シメルフィニヒ（苦竹）、キャンプ・ローパー（多賀城）、レニア・フィールド（南小泉霞ノ目）の米軍キャンプには、それぞれに将校クラブ・下士官クラブ・兵卒クラブが置かれ、全てに日本人バンドが複数配置され、米兵の好きなジャズが演奏されました。

バンドマンをスカウトする中にいた曲直瀬花子と正雄は1946年、仙台でマナセプロダクションの前身であるオリエンタル芸能社を設立。この後夫婦の長女、渡辺美佐と晋は1955年1月、渡辺プロダクションを設立。クレージーキャッツやシャ

ボン玉ホリデーは一世風靡、日本の音楽芸能を牽引しました。

昭和32年米軍撤退後、将校クラブや街場のバンドマン数百人はそのまま社交場のお抱えとなり、朝鮮戦争特需から神武・岩戸・いざなぎに2度のオイルショックを経てバブルまで、社交場とジャズはバンドマンらの活計となりました。しかしバブル崩壊後の仙台はゼネコン汚職に官官接待が露呈、社交場や料亭文化は衰退し一部を残しバンドマンは転職を余儀なくされました。

時を同じくして1991年、プロと元プロのバンドマンが集まり開催したのが定禅寺ストリートジャズフェスティバル。まさにフランス革命を経て宮廷料理家が放逐されたのを機に花開いたフランス料理しながら、音楽の街仙台が復古した瞬間であり、現在の一年を通じてジャンルを超えた多彩な音楽が彩る街につながるのです。



仙台のジャズシーン

## 仙臺はじめて物語 ㊨ 仙臺の味噌

豊臣秀吉公の朝鮮出兵（1592年～1598年）に際し伊達政宗公が朝鮮に渡り蔚山で戦った折、他大名家の味噌は夏期に腐敗、伊達家持参の味噌は変質せず味も優れていたのも、請われて他大名家に分ち与え、一躍『伊達家の味噌』の名を上げたと伝えられます。

関ヶ原の合戦後の1600（慶長5）年12月24日仙台で築城の縄張りこえんそぐらと城下の町割りに着手、曲輪内の一面に味噌蔵「御塩噌蔵」を建て、御用味噌を仕込んだのが仙台での味噌造りの始まりと伝えられます。程なく江戸大井の下屋敷に味噌蔵がつけられ国許からの大豆・米で味噌が仕込まれるようになり、味噌の美味しさから味噌屋敷と呼ばれました。

朝鮮出兵から40年の時を経た1636（寛永13）年5月、政宗公の死去に伴い家督を相続した二代忠宗公の治世、江戸屋敷の余分の味噌は払い下げようになり、江戸中の評判を得て全国へ伝播しました。この頃から伊達家の味噌は「仙台味噌」と呼ばれるようになったと思われます。



仙台味噌の仕込み



## 仙臺はじめて物語 伍 うなぎ食

丑寅は虚空蔵、辰巳は普賢と言い丑寅辰巳生まれの人は愛宕山の守本尊を信仰し、鰻を食べず、蛇を獲らない風習は全国にあり、特に河川の氾濫が多く治水に苦慮した仙臺領は北上川流域や四谷用水を整備、豊作祈願と虚空蔵菩薩信仰により「うなぎ食」をご禁制としました。

1822（文政5）年、遠藤忠蔵は料理修行後に仙臺で「遠藤屋」と名乗り料理屋を始めましたが、うなぎ料理を提供し御禁制破りした罪により宿老の家に一時お預けの身となりました。

宿老の息女が暑い土用に体が衰弱しているのを見た忠造、人命には代えられないとお叱りを覚悟で鰻の蒲焼を料理して食べさせたところ、身体に精力がつき日増しに快方に向い間もなく息女は全快。

事の次第を聞いた11代領主伊達斎義公は、お咎めを解き、忠造を自由の身とした上で城下において鰻司を仰せ付けされたのが仙台のうなぎ事初めにて、現在の大観楼につながるのです。



大観楼のうなぎ



仙臺行事裸参り

## 仙臺はじめて物語 なんだりかんだり

六 諸国にあり、天明の飢饉後、桃生地区の豊年踊りや仙台の石工に伝承の「はねこ踊り」はあったが、江戸時代の東照宮の祭典・仙台祭や年中行事の記録に「すずめ踊り」の記載は無い。

七 1850年頃、国分町の蔵元「菅原」の字が書かれた桶を持ち盛岡八幡宮や松尾神社の代わりに大崎八幡宮に吟醸参りする南部杜氏が描かれた絵図が裸参り最古の記録と言われている。南部領から仙臺領に出稼ぐ南部杜氏が正式に領外に出稼ぎ始めたのは1870（明治3）年。

八 松炊き祭りを「どんと祭」と表したのは、明治39年の地元新聞社の記事で「松焚祭」の呼称を、九州の正月行事の「どんど」の例を引き呼称したのが「どんと祭」と呼んだ始まり。

九 明治後半に豊漁で獲れ過ぎたハゼは焼き干され商品化、安価で入手しやすく、雑煮の出汁の材料となりました。後年、テレビ取材にホテルの調理長が「いくら」と「出汁の焼きハゼ」を飾り豪華さを演出したお雑煮、いつしか「仙台雑煮」として一人歩き。今でも仙台の旧家では、焼いた角餅に、おひき菜・からとり・しみ豆腐・仙台セリに、お醤油と鶏の出汁のお雑煮が一般的で豪華さは無い。仙台は「お歳とり」のお料理が一番贅沢なおご馳走だった。

拾 明治期に大量にとれたヒラメを掌かまばことして売り出したのは広瀬蒲鉾店で、笹かまと命名して売り始めたのが阿部蒲鉾店。

拾壹 夏場に売れない「中華そば」を昭和12年に涼拌麺として長丁の「龍亭」が売り出したのが冷やし中華の元祖。東京の「揚子江菜館」が創始したという説もある。

拾貳 牛タンは、佐野啓四郎氏が洋食修行中の昭和10年頃牛タンと出会い、戦後間もない物資不足の中、米軍供出の牛タンを仕入れ調理・提供したのが仙台の牛タン焼きの始まり。

拾三 「仙台せりしゃぶ」は、名取の三浦農園が提唱し居酒屋「いな穂」より発祥、地元左党に愛され発展。名取市下余田の三浦農園にて栽培の農薬不使用有機農業のセリは、葉は2～3秒、根は10～15秒程しゃぶしゃぶして食すが旨く、鍋よろしく煮てはいけない。



仙臺居酒屋おはな【三浦農園の仙台セリしゃぶ】

拾四 靴下に穴が開けば「おはよう靴下」と言い、仙台の女学生発祥のルーズソックスやミカサのバッグは仙台の学生の定番。

拾五 「ほそやのサンド」の創業は昭和25年、日本人による日本人のための日本最古のハンバーガー発祥のお店。

拾六 仙台初売りは伊達家記録「正月仕置之事」に「二日かいそめて町へ…買い候」との記載あり。初売りの景品は江戸時代からの「歴史ある商習慣に基づく」との理由で、昭和52年に公正取引委員会が定めた景品表示法の特例となり、他都市には無い割増と豪華さで、仙臺商人の心意気を表す江戸時代からの正月の風物詩。

### 出典

命をつなぐ食と農 仙台農業協同組合著  
(財)渡辺音楽フォーラム:抱えきれない夢

Sendai Jazz Crosby

要説 宮城の郷土誌

せんだい歴史の窓

仙台旧城下町に所在する民俗文化財調査報告書

天賞酒造に係る文化財調査報告書

大崎八幡宮の松焚祭と裸参り

仙台セタの伝統と継承

仙台セタまつりの変容に関する一考察

都市祭礼「仙台セタまつり」の成立と変容

仙台セタを支える人

仙台の祭礼

仙台づくし

仙台事物起原考

取材:元天賞酒造(株)天江新六郎氏

仙台味噌(合)亀兵商店 代表社員 亀田治氏

株式会社大観楼 代表取締役 遠藤慎一氏

名取市三浦農園 三浦隆弘氏

魅知国定席花座 席亭 白津守康氏

郷土史研究家 木村紀夫氏

元映画館支配人・お散歩人 遠藤瑞知氏

グラフィックデザイナー・絵図師・家紋姓氏研究家

厚綿広至氏

「四谷用水を街並みに！」市民の会副会長 村上

英寛氏



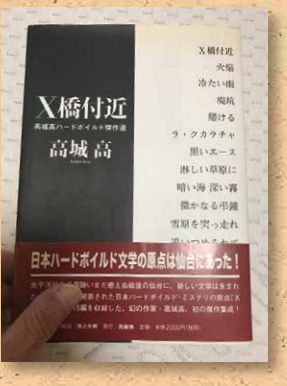
COLUMN

わたしの一冊 ①

あなたがイメージする仙台はどんな街ですか？  
aBaiNN編集メンバーが、仙台を感じる「とっておきの1冊」をオススメします。



「流人道中記」 浅田次郎／中央公論新社  
主人公の玄蕃と乙次郎は仙台のろう獄で死罪が決まっている16歳の亀吉と出逢う。連載中、読者から助命嘆願が数多く寄せられたというエピソードと、舞台になった国分町外人屋や七北田の刑場跡は聖地巡礼よろしく、読者が訪れる地となっています。  
(千葉 富士男)



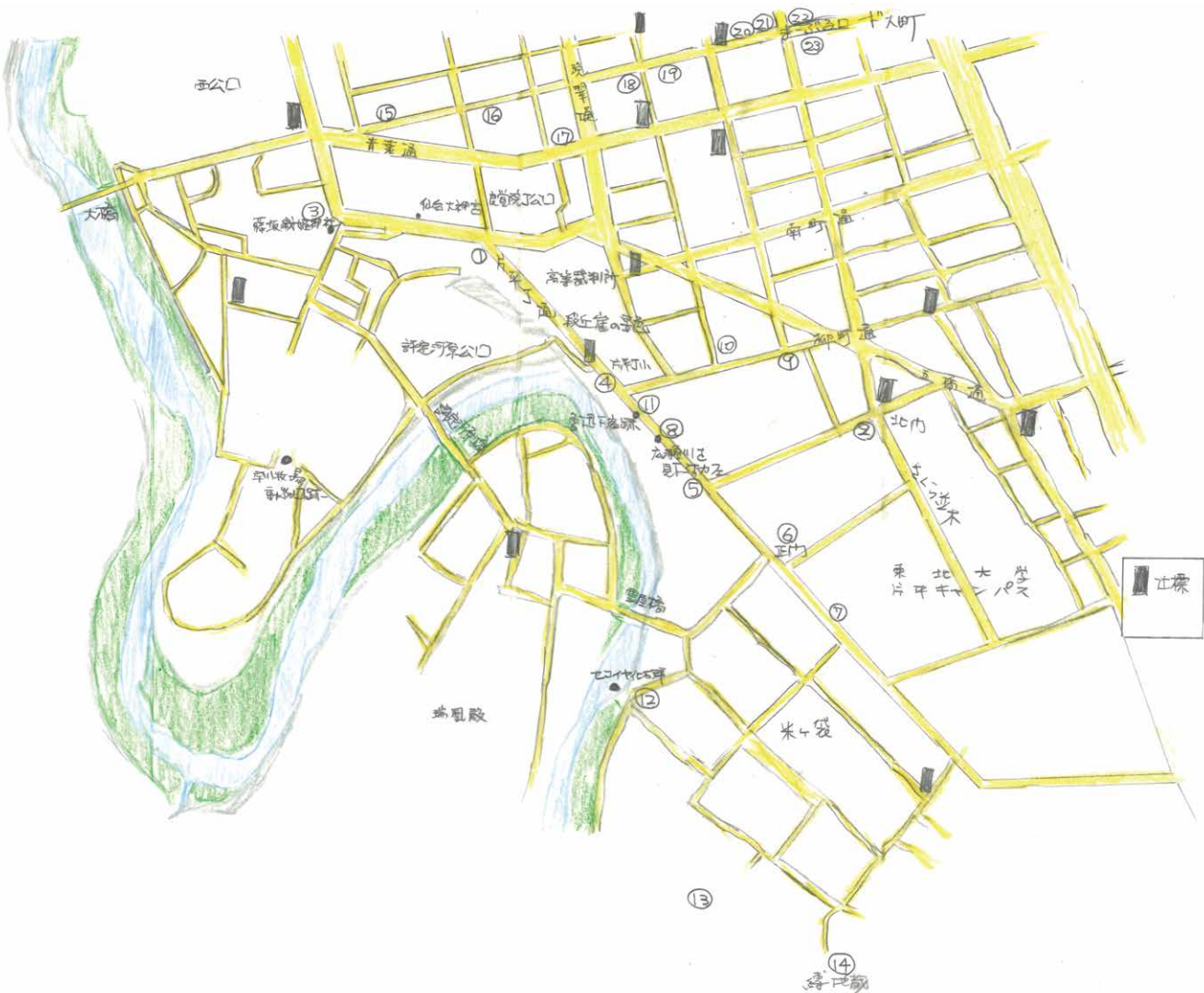
「X橋付近」 高城高／荒蝦夷  
私のお奨めは高城高著「X橋付近」です。お勧めポイントは、今や無くなってしまったX橋を題材にした日本のハードボイルド。昭和30年に発表の小説が、2006年に出版され「ハードボイルド文学の原点は仙台にあった」と帯に記されていた。また全然稚拙な私が手に取った原因として、亡き母が戦時中、この近辺に疎開していたことを聞いていて、こちらに来る前からX橋のことを認識していたこともあります。  
(花井 繁行)



「仙台っこ」 今野印刷株式会社  
「仙台っこ」は街・店・人をつなぐ創刊25年のタウン誌です。中でも長期連載の「ぞうかば雑談」は人気のページで、ある号の「最高にあるものを活かしてる仙台の三人」に私も紹介いただき、尚のこと好きになりました。読者欄に「仙台っこの情報はとても役に立っています。これからも様々な情報発信をお願いします」とありました。皆さまも是非ご一読ください。継続25年の訳が分かりますよ。  
(中島 敏男)

仙台の古絵図を歩く 文＝花井繁行

安政補正改革仙府絵図(令和版)が発行され、私自身も、街をあるくために古地図よろしく、自ら絵図を書きました。オフィスやナショナルチェーンが多い街並みの御譜代町の大町と、江戸時代から変わらない道筋が残る片平地区を中心に、辻辻に建つ道標や街灯の支柱に江戸時代の小路の名が刻まれていたり、大身の武家屋敷跡、寺社など史跡を確認しながら歩き、自分なりに古絵図と自筆の絵図を比較して絵図に落としてみました。



- |                |              |           |            |
|----------------|--------------|-----------|------------|
| ① 対橋楼春風亭       | ⑦ 旧二高正門      | ⑬ 阿部次郎記念館 | ⑲ 庄子商店     |
| ② 東北大学北門からの桜並木 | ⑧ カフェ・モーツアルト | ⑭ 縛地蔵     | ⑳ 日本銀行仙台支店 |
| ③ 藤坂織姫神社       | ⑨ 道場小路の電灯    | ⑮ ベートーベン  | ㉑ 大竹園      |
| ④ 片平丁小学校の石垣    | ⑩ 伊勢屋横丁の電灯   | ⑯ やぶ屋本店   | ㉒ 白松       |
| ⑤ 片平市民センター前の石垣 | ⑪ 旧魯迅住宅跡     | ⑰ 光明堂     | ㉓ 藤崎       |
| ⑥ 東北大学正門       | ⑫ セコイヤ化石群    | ⑱ 食パンに志かわ |            |



## かたひら 片平 まちあるき 🍌🍌

片平丁は江戸時代、北一番丁の西端の支倉町から南は田町に至る大身歴々の大きな武家屋敷が連なる、南北に長くて広い侍丁で段丘崖に隣接する地形から片平と呼ばれました。  
明治以降は大町頭以南に地名が残り、東北大学や片平丁小学校、裁判所などに姿を変え、屋敷を料亭とした区域や寺社が往時をしのばせる地区となりました。

広瀬川の段丘崖のへりに位置する「松ノ井屋敷」は伊達家11代斉義公の夫人の生母宅で、幕末、奥羽列藩同盟を審議した屋敷で、明治になり、河原町の五軒茶屋から移転してきた料亭は現在もビルの中にて営業中の対橋楼春風亭。

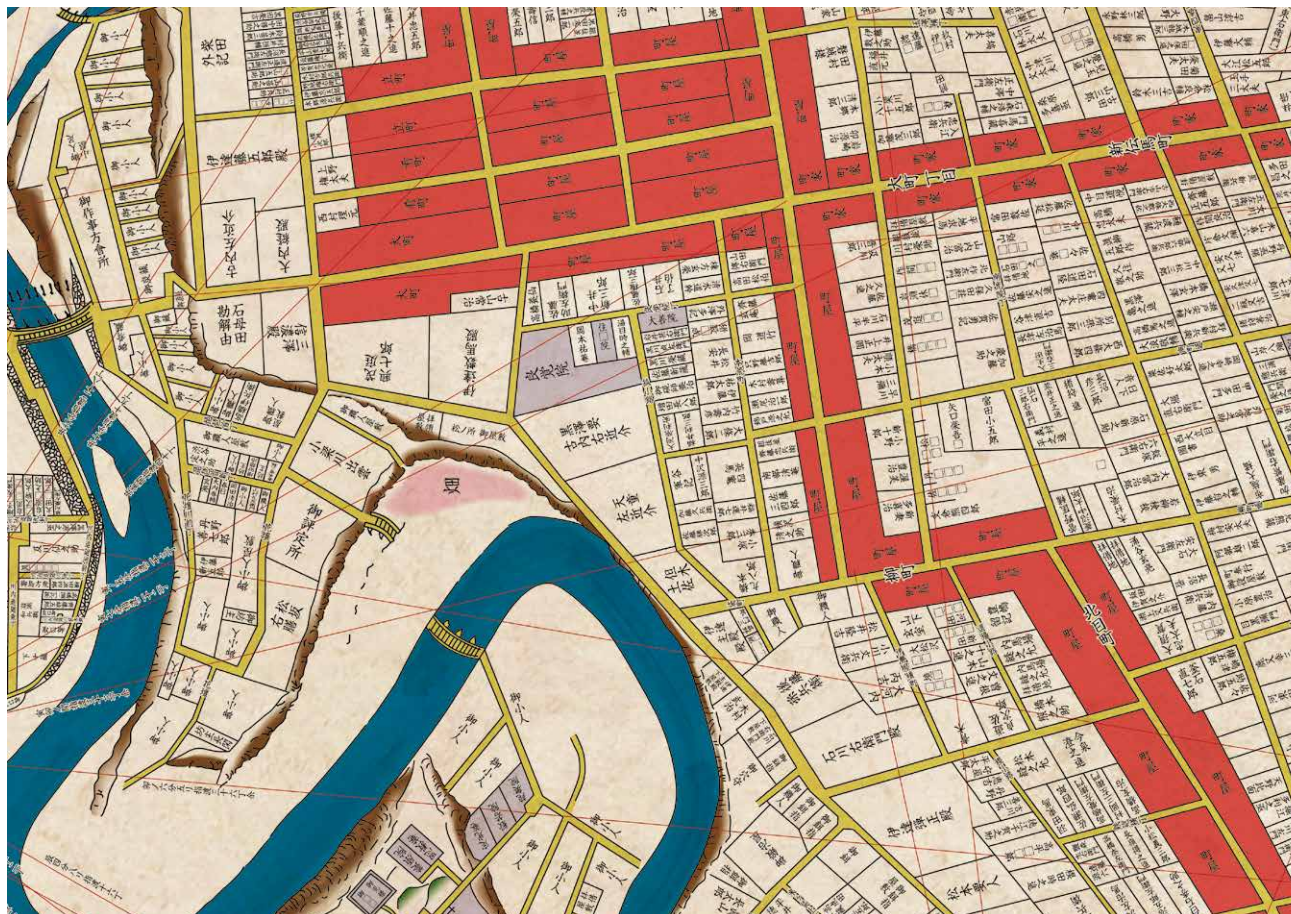
良覚院丁公園には馬上嶺崎神社があり、名馬五島と宿老後藤孫兵衛を祀り、今の仙台大神宮は茂庭周防の屋敷跡でした。

仙台家庭裁判所は寛文事件の原田甲斐の邸跡で、樹齢340年の「コウヤマキ」があり、片平市民センターや東北大学にも往時を忍ばせる石垣があり、魯迅旧住居跡やカフェ・モーツァルト、東北大正門や、藤崎織姫神社など、新旧織り交ぜて、まちあるきスポットが点在。

東一番丁の南端の伊勢屋横丁は侍相手の酒屋があったとも言われ、弾正横丁は東北大学正門付近にあった岩出山館主伊達弾正屋敷跡で、今も街灯の袴部分には横丁の名が遺っています。



原田甲斐屋敷跡の石垣



「安政補正改革仙府絵図(令和版)」より一部トリミング



原田甲斐屋敷跡、樹齢340年の「コウヤマキ」



伊勢屋横丁



弾正横丁

## 大町 まちあるき 🍌🍌

江戸時代、仙台北下には二十四ヶ町の町人町が配置されていました。

特に大町は福島から米沢、岩出山と伊達家と共に移り住んだ御譜代の商人町で、芭蕉の辻を挟んで、東西に配置され、旗頭として豪商のお店が連なる町でした。  
街をあるき、商店の移り変わりを見てあるきました。

芭蕉の辻は、仙台北下大町通と奥州街道が交差する、城下で最も栄え人通りも多い華やかな町でした。

辻名の由来は、領内に禁令などを掲げる高札場(場所の辻)が設けられたからとも、芭蕉という虚無僧に戦いの恩賞として屋敷を与えたからとも言われています。

板葺きや茅葺きの平屋が多い城下にあって、芭蕉の辻の四隅に立つ楼閣風の建物は風格があり、城下の名所となりました。

大町一丁目は古着屋、二丁目は木綿問屋、三丁目は呉服屋、四丁目は小間物屋、五丁目は油問屋。肴町は魚介類一切の販売権、立町は五穀の専売権、元柳町はお茶の専売権を与えられた町で、その後、町ごと移転した南町や荒町も御譜代町でした。

「安政補正改革仙府絵図(1856年~1859年)令和版」に見る仙台北下は、朱色の区域が商人町で、全体の2割程度。あとの8割方は侍屋敷と寺社地で、上屋敷に下屋敷、仙台以外に領地を持つ大身歴々はまさに小大名。街道筋には凡家と呼ばれる足軽や鉄砲衆が置かれ万が一に備えました。



# 西公園は宝の山

仙台駅から地下鉄東西線わずか3分の西公園。あなたは、行ったことがありますか？

街中にありながら、108,000㎡の敷地を誇り、杜の都を象徴する場所の一つです。

元々は、伊達家の重臣伊達安房・古内左近之助・大内縫殿の武家屋敷で、明治8(1875)年に「櫻岡公園」として誕生しました。その後開園した東の公園「榴岡公園」に対し、中心部の西にあることから「西公園」と呼ばれるようになりました。

145才を越えた西公園には、豊かな自然・歴史・文化が山ほど！

今回はその中から、新しく出来た「歩話人ロード」と、SL「C-601」をご紹介します。



## ほわっと 歩話人ロードってWHAT？

文＝清水千佳

### なんとかしたい！

お花見の名所で、七夕前夜祭にも多くの市民が訪れる西公園。しかし、2011年の3.11震災後は、しばらくの間「放って置かれ」た感じとなり、草ボーボー、訪れる人も減り、遊具で遊ぶ子どもたちの姿も見られなくなりました。

そこで、なんとかしたい！と、動き出したのが「西公園を遊ぶプロジェクト」。西公園界隈で育った人、仕事をしている人、公園の利用者・愛好者などに声をかけ、毎月定例の市民参加企画を実施。西公園まつりを開催したり、市の公園課と協働で、伸びすぎた樹木を剪定したり、花壇に花を植えたりの活動もしてきました。

そんな中「もっと椅子があつたらいいのに」「この道の両脇に花が咲いていたら楽しく散歩できるのに」など、色々気づくことが出てきました。

でも、私たちが花があつたら・・・と願った園内の歩道は、針葉樹が鬱蒼と茂り雑草もあまり生えない場所。花の道にするためには、大掛かりな土壌改良が必要でした。所有者は仙台市だし、市民有志が集まっただけのプロジェクトに、そんな資金も技術ありません。



#### 【西公園】

仙台市青葉区桜ヶ岡公園1-3

アクセス／地下鉄東西線大町西公園駅下車すぐ

#### 【西公園を遊ぶプロジェクト】

☎022-262-2969

### 1万株の水仙が咲く道

ところが、思いがけず夢が叶うことになりました。2018年の「緑の環境プラン大賞」で、なんと！シンボルガーデン部門の大賞をいただいたのです！！薄暗い歩道を明るくするのは黄色い花！と水仙を選び、近隣の幼稚園や保育所・小学校の子どもたちと、約1万個の球根を植えました。その他には、日陰でも元気なツワブキやギボウシ、白いアジサイ「アナベル」も。歩きながら人々の話がはずむ道に・・・との願いを込め「歩話人ロード」と名付けました。

球根を植えた場所には、自分の名前を書いたラベルをつけ、後日「これは僕が植えたの」と、子ども達がお父さんやお母さんを公園に連れてくるきっかけになりました。ベンチも三つ設置出来ました。

春には見事にたくさんの花が咲き、お茶の先生を招いて「水仙も咲いたよ茶会」を開催。歩話人ロードにたくさんの人が訪れました。

公園は、市民みんなが育てていくもの。コロナ禍でも、四季折々に、私たちの目を楽しませ、気分転換させてくれる貴重な場所です。

ぜひ春には、桜とともに黄色い水仙がいっぱいの、仙台新名所・歩話人ロードへお出かけください。



2019年春 水仙も咲いたよ茶会で賑わう歩話人ロード



# 西公園SL物語

文＝中島敏男

## 再現された特急「はつかり」

東北初の特急「はつかり」は1958年に上野－青森間で運転を開始し、「はつかり号」のヘッドマークをつけたC60やC61が牽引、私も仙台－ノ関間を乗務していました。2018年10月14日の「鉄道の日」に、はつかり登場60周年を記念して「仙台市蒸気機関車C601保存会」と「みちのく鉄道応援団」が企画した撮影会で特急「はつかり」の雄姿が再現されました。

## C601がなぜ西公園に？

当時、小学一年生の滝浦真人さんが東北本線、常磐線の全線電化に伴って数多くの蒸気機関車が廃車解体されることを知り、国鉄東北支社に送った手紙が「てつどうのおじさん、じょうききかんしゃをばくたちにください」でした。この手紙がきっかけで国鉄と仙台市が保存に動き1969年5月5日の「こどもの日」にC601が西公園に静態保存されることになりました。設置されてから51年もの間、SL広場のC601は多くの市民に愛され続けて来ました。



滝浦さん(写真右)は現在、言語学者で放送大学教授です

## 蒸気機関車と新幹線

当時、私が勤務する仙台機関区は在籍機関車数が48両(内12両がC60型)で、乗務員数は機関士339名、機関助士38名の大機関区でした。1968年10月に東北本線の全線電化に伴って蒸気機関車は廃止されましたが、それを機に鉄道の近代化が始まり1982年6月23日に東北新幹線大宮－盛岡間が暫定開業しました。私は大宮暫定開業以来、上野開業・東京開業・山形開業を経て2004年2月に定年退職しました。鉄道の新たな変革の中で蒸気機関車から新幹線まで乗務できたことは私にとってとても感慨深いものがあります。



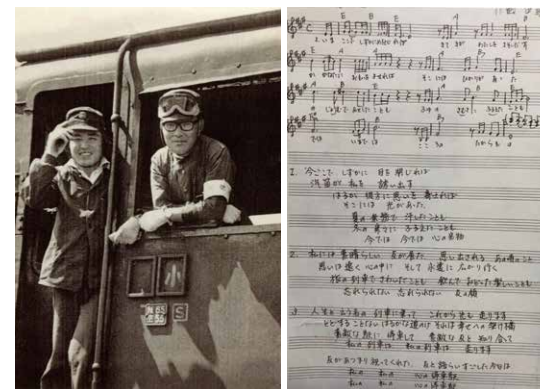
東北本線岩切駅急行列車通過待ち



やまびこ盛岡行を見送る

## 追憶

お世話になった先輩機関士に送った曲「勇退者に捧げる歌」です。退職祝の席で歌った後、先輩のお別れの席で献奏させていただきました。



石巻駅にて鈴木機関士(写真右)と 「勇退者に捧げる歌」

## C601と定禅寺通り

C601は定禅寺通りを見通せるSL広場から春はけやきの新緑と青葉まつり、夏は七夕パレード、秋は定禅寺ストリートジャズフェスティバル、冬は光のページェントと、仙台を代表するイベントを51年間も見守り続けてきました。緑のケヤキと光のトンネルに向かって走り出すように見える運転席からの景色は圧巻です。西公園のお奨め絶景ポイントに是非お立ち寄りください。運転席に座って定禅寺通りを見ているとつい口ずさんでしまいます。「今ここで静かに目を閉じれば汽笛がわたしを誘い出す」。

西公園は私のセカンドプレイス。

西公園は私のアナザーパーク。

C601は私の思い出と子供達の夢を乗せてこれから先も走り続けます。

「出発進行!!」





# 仙台まち歩きマップ

2020年11月某日、「aBaiNN」制作メンバー総勢13名で、せんだいコンセキ発掘塾木村浩二さん案内のもと仙台の街を歩きました。その時のルートと見所を紹介したマップです。仙台常連さんも、初めて仙台さんも楽しめること間違いなし！このマップを片手に仙台の街を歩いてみましょう！



案内人

テキスト執筆

太宰徳夫

花井繁行

イラストマップ

竹永絵里

せんだいコンセキ発掘塾  
木村浩二さん

【辻標】  
城下町の町名や通名を伝えるため、市政88周年記念事業として88カ所に設置。  
一番は表小路・勾当台通。由来、歴史など解説文が面白いヨ。さぁ探してみよう！

【丁と町の違い】  
仙台北下では、北一番丁、東一番丁の様に侍の住む屋敷地とそこを通る道を含め  
「丁」と呼び、三百人町、大町のような足軽や町人の住むまちを「町」と呼んだ。



## わたしの一冊 ②



### 「仙台ぐらし」 伊坂幸太郎／集英社文庫

仙台で暮らす作家は多いが、今を語る上で外せないのはこの人だ。作品そのものが仙台の名所巡りであり、私にはその聖地巡礼のため来た大阪の友人がいる。

本書はその作家の日常を綴ったエッセイ集。やたら心配ばかりしている彼だが、そこにあの震災が起きる。彼もまた当事者であり、あの時をどう過ごしていたか知ることが出来る。仙台の出版社 荒蝦夷より刊行されその後文庫化された、まさに仙台発の一冊。

(押野 緑)



### 「伊達女」 佐藤巖太郎／PHP研究所

時代小説はちょっと苦手という女性にも是非読んで頂きたい一冊。福島生まれの著者は、前作「会津執権の栄誉」で2017年、本屋が選ぶ時代劇小説大賞に輝いた若手作家。政宗がいかにして奥州王になったかを、滅ぼされた芦名家をメインにして描いた連作短篇集の続編と言えるもの。帯にもある様に、政宗を取り囲む女性達、母・妻・保姆(ほぼ)・側室・娘らの目線から描いた前作にも勝るとも劣らない作品です。

(太宰 徳夫)



### 「BLUE GIANT」 石塚真一／小学館ビッグコミック

ジャズプレイヤーを目指す主人公・宮本大が、高校生時代を過ごしているのが仙台。物語初期には、練習場となる広瀬川や、国分町のライブハウス等が克明に描かれています。「おっ!あそこは!」と、実在の風景と比べてくなりますよ。中でも、若い頃川前丁に住んでいた私にとっては、仲ノ瀬橋近くの「定進堂」が出てくるのが嬉しくて。惣菜パンを買った記憶はないけど、お菓子や日用品を売ってたかな?

(清水 千佳)

【小説】

# 回文団扇

私負けましたわ

文＝湯之上 龍ノ介



## プロローグ 謎の展開

私は起きた。

私は小学4年生の神谷美香。

仙台駅に近い荒町という雰囲気抜群な街で、いつも通り学校に行き、いつも通り授業を受け、いつも通り遊んで、いつも通り帰って、いつも通り飯を食う。

そんなごくごく普通の小学生女児だ。

ごくごく普通ってなんだって話だけど、それは置いて、とある学校の日

「神谷、ちょっといいか？」

「なんですか？先生」

「お前、学習委員だよな？」

社会科室に今日提出の宿題運んでおいてくれないか？

社会科室勝手に入っているから！」

「かしこまりました！」

「うん、よろしく」

おい、折田、お前も学習委員だからサボるんじゃないぞ」

「ぎ、ぎくっ!!!」

(いや、反応古いんだよ)

私は思った。

彼の名前は折田理生、私と同じく四年生だ。

「さあ、これ運んでさっさと帰ろうぜ、多分今日の晩ご飯はきらきら丼だな」

「いや、聞いてないし、それ、多分この読者知らない人絶対いるでしょ」

「マジレスされるとやりづらいけどまあ、早く運ぼうか」

「うん、それもそうだね」

そうして私たちは今日提出の宿題を運んで社会科室に向かった。

ガラガラガラ

「お邪魔します!!!」

2人が入ってった、社会科室はどこか薄暗く怪しい雰囲気が漂っている。

「なあ神谷、どこ置けばいいと思う？」

「あの大きい机に置けばいいんじゃない？」

「そうだね。そうしよう」

2人は置いた、その場を立ち去ろうとしたその時ガコン

「痛っ!!!」

「折田大丈夫？」

「あ、大丈夫だよ、ありがとう！」

ん、なんだこの箱？玉手箱かなんかか？」

そこには古びた木箱みたいなのがあった

「なあ神谷これあけてみようぜ」

「いや、ダメだよ！」

何考えてるんだよー！」

「いいじゃねえか！」

いくぞ！3、1 ゴー！」

「いや2は!？」



パカッ  
箱を開けてしまったようだ。  
そして、目が突然と開かなくなる  
「「うわ、うわぁ～！！」」

## 第一章 回文団扇の仙人

目が開けられるようになって開けたときにはそこ  
はすでに別の世界が広がっていた。  
昔馴染みの風景、紙芝居で見たことある顔、そし  
て意味のわからない団扇。  
「なんだここは？」  
「あ、折田、ここどこだろうね」  
すると、突然、大きな音がした  
ダン  
「「うわっ！！」」  
そしてそこには見知らぬ仙人のような爺さんがい  
た。  
「あなたは…？」  
神谷が尋ねた  
「おっほっほ、私は仙台庵、荒町の仙人じゃ、そし  
てここは 200 年前の麴屋が栄えてた時の荒町。荒  
という漢字が入っているがアライグマに占領され  
てるわけでも、荒れているというわけでもない」  
「いや、聞いてねーよ」  
「ってか、ここ荒町？！」  
「そうじゃ、ここ、荒町は伊達政宗が仙台を開いた  
時、それまでの領地米沢や岩出山から一緒に移ら  
せた商人町の 1 つで、代々麴の専売権を持ち、の  
ち奥州街道沿いに移り現在の街並みになったが、  
盛んな時には百軒もの麴屋があったと言われてい

るのじゃ。  
わかったかの？」  
「いやマニュアルか、もっとあんたの言葉で話しな  
よ爺さん」  
「そして、その意味不明と嘆いておった団扇なの  
じゃが…」  
「そこはスルーなのね…」  
「まァ神谷一回落ち着きなよ、言いたい気持ちはわ  
かるが」  
謎の爺さん仙台庵はこう続けた  
「その団扇はの、回文団扇といって、言葉遊びの回  
文はわかるか？」  
「あー、なんか下から読んで上から読んでも一緒に  
なやつだよね！」  
「そうじゃ、まァ和歌や俳句の一種じゃな、それを  
荒町名物の団扇にも書き摺らせることで、一層有  
名になったのだが、ここまでで何か質問はないか  
の？」  
「あんたは何してる人なの？」  
「麴屋を営む傍らで、回文作りの奇才として知られ  
ていたぞ、すごいじゃろえっへん」  
「もっとそこは躊躇しろよ」  
「てなわけでだ、ワシは一生で千以上の回文を書  
き、店も早い段階で娘婿に譲ったというわけだ」  
そっから仙台庵の長話が延々と続き、段々と眠く  
なる 2 人であった。

そしてやっとひと段落ついたところの話。  
「あんたすごい人みたいだけどすごいという実感  
湧かないよね！」  
「おいおい神谷、それは爺さん悲しむぜ」  
「…zzzz」

寝ているようだ。  
「そーいえばこの爺さん酒臭くね？」  
「折田、それは言わないお約束よ」  
「あー俺は酒好きで知られてるみたいだからな」  
「「起きてたのか！！」」  
「しかも、麴屋いうても濁酒を売ってたからのお」  
ちなみに諸説によればそこでも自慢の回文を披露  
してたとのこと。  
「濁酒買って飲んでくれよ」  
「いや、爺さん、私たち未成年よ」  
「そうそう、成人してから頼んでくれ、んで、この  
世界に来たってことは出る方法もあるんだろう、  
教えてくれよ」  
「そうじゃな、回文団扇を作ってくれたら出れると  
思うぞ」  
「え、あれ作るの？！」  
「でも折田、よくよく考えてみてよ、この人が有名  
にさせた人と言うならば、土台はできてるはず、  
それを元に考えれば…」  
「なるほど！」  
「あ、1 つ言っておくが被っちゃダメじゃぞ」  
「まじかよ！！」  
「んじゃワシはその辺ぶらつくから、わかったら探  
すんじゃぞおー」  
「いや徘徊するな！」  
仙人は散歩に出た  
そして、2 人の回文を考える時間が始まった

## 第二章 回文作りと仙人の実力

「うーん、回文つっても作るの難しくないか？もう

新聞紙（しんぶんし）とか竹藪焼けた（たけやぶ  
やけた）とかでいいんじゃないか？」  
「いや、メジャーすぎるし絶対思いついてるでしょ」  
「せっかく考えるんだからさあの爺さんをギャフン  
とは言わせたいよねー」  
……  
2 人はだんまりと考える時間が増えた、三人寄れ  
ば文殊の知恵だなんて一体誰が作った言葉なんだ  
か、いるのは 2 人だけど  
「なァ神谷、そーいえば下の名前なんだっけ？」  
神谷神谷言ってたから下の名前覚えてなくて  
さ、」  
「私？美香だよ！神谷美香！」  
「そうか、ありがとう、美香って呼ぶ人あんまいな  
いよなー」  
「そうだね、みんな神谷か神谷っこだもん、神谷っ  
こって冷奴じゃないんだから、あんたの下の名前  
って理生だよな？理生って男の子で結構珍しいよ  
ね」  
「そんなことないよ、探せばいるって」  
「ん、ちょっと待って、あんたの名前は下から読ん  
でもおりたりおにならない？」  
「え、あ！ほんとだー！  
そーいえば神谷もじゃない？」  
「あ、ほんとだ！どっちから読んでもかみやみか  
だ！なんで今まで気づかなかったんだろう、泣き  
たいよ」  
「よし、あの爺さんを探しに行こうぜ」  
2 人は駆け出した

「「爺さん！！！」」  
2 人は探していた



「あの爺さん本当にどこに行ったのよ」  
「本当だぜ、全然見つからないじゃないか、何がその辺だよ、荒町出そうだぞ」  
「ねえ、あの爺さんが行きそうなところを考えてみようよ」  
「そうだな、考えてみるか」  
そして2人は一度考えてみることにした  
しばらく頭を悩まし続けながらも街の風景は変わらず会話を辿ってみた。  
すると、折田が1つの答えにたどり着いた  
「なあ、神谷、濁酒がどうか言ってなかったか？」  
「え、あー、なんかそんな言ってたな酒好きだって」  
「自分の麴屋に行って酒でもみてるんじゃないか？俺らと爺さんはこの世界だと幽霊みたいなもので周りからは見えないから」  
「あ、確かに！物には触れないもんね！じゃあそこを自力で探して行ってみるか！百軒くらいの麴屋があるから大変だけど！」  
2人は麴屋を探しまくった

「おい！神谷！あれ爺さんじゃないか？」  
「あ！ほんとだ！あれは、麴屋…細谷？」  
「まあ行ってみるか！」  
「「おーい爺さん！！」」  
「ん、おーあんたらか」  
「片手に酒って何してるのよ」  
「酒はいつも懐に入れてるぞ」  
「ところでなぜここなの？」  
「あー、ここ、わしの育った場所なのじゃよ」  
「え、細谷。あ！前紙芝居で聞いたことある！てことは、あんたの本当の名前って細谷勘座右衛門！？」  
「そうじゃが、悪い？すまんのぉ〜」

「いやそんなことないわよ、知ってる名前だったから、育った場所って生まれた場所ではないの？」  
「ワシは養子じゃから、生まれた場所など覚えてもおらん」  
「なるほど、養子だったのか」  
「んで、回文できるのか？」  
「「できたよ！！」」  
「んじゃ娘さんから行こうかのお」  
「うん！かみやみか！」  
「おー！確かに回文じゃ！次、そこのあんさんじゃ」  
「うん！おりたりお！」  
「おー素晴らしい！でも2人とも言葉の意味がわからんのじゃが」  
「意味なんていらないさ、だって俺たちの名前だからな！」  
「なんと！そんな奇跡があるのか！だとしたらワシの出番は終わりじゃな、あんたらも元の世界に戻れると思うぞ、少しの間だったがありがとうじゃー、じゃあこの団扇にその回文を吹き込むのじゃ、映り出されるからそれができたら元の世界に戻れる」  
そう言いながら2つの団扇を出した。  
「やっと思えるみたいね」  
「そうだな」  
「じゃあ私から、かみやみか！」  
「おりたりお」  
モワーン  
ボン！  
次の瞬間2つの団扇には2人の言った回文が刻まれた。  
「すげー、こんなことが本当にあるのか」  
「あるから起きてるんじゃない」  
シューーーーーン

突然と光出した  
「なに？！眩しいわ」  
「確かに、目が失明しそうだぜ、音が煩すぎて鼓膜が破れる時の感覚だぜ」  
「なったことない上になにそのたとえ、よくわからないわ」  
「「うわーーーーっ！！！」」

## エピローグ 私負けましたわ

2人は目を覚ますと社会科室に戻っていた。  
「なんだったんだあれ、夢か」  
「でも、時計は1秒も進んでいないから寝てはいない、本当にタイムスリップしたんだわ」  
すると音がしだした  
カッカッ  
ガラガラガラ  
「おい2人ともプリントはちゃんと置けたかー？」  
「「先生！！」」  
先生であった。  
「なんだよ2人とも、命の危機にあったみたいな反応しやがって、先生ピエンだぞ」  
「先生、無理に若者言葉使うのやめてください、頭痛くなりそうです」  
「そういや先生あの紙芝居どうしたんだ回文のやつ」  
「あーあれか、あれ、商店街の人にもらったんだ、結構歴史が古いみたいだぞ、よかったら今度図書館にでも行って読んできたらどうだ」  
「そうだな！」  
そう言いながら神谷が続けてこう言った

「先生！せっかくだから3人で回文の勝負しよう！」  
「お！いいぞ誰が一番できるかな！」  
「うん！じゃあ私からね！かみやみか！」  
「おい、神谷ずるいぞ、じゃあ次俺、おりたりお！」  
先生が微笑んだ表情でこう続けた  
「なんだなんだ回文とはいえど自分らのフルネームか、じゃあ次は俺だな行くぞ」  
2人は勝ち誇った表情でいると

「みな草の 名は百（はく）と知れ、葉なり  
すぐれし徳は花の作並（さくなみ）」

2人は呆然としてた  
「先生それどーゆーことだよ」  
「まあ意味としてはだな、草は百種類あろうがみな葉である、優れた効き目のある葉は咲き乱れる作並のようだということだ」  
「先生、ここ荒町だよ、作並じゃない、区まで違うじゃないの」  
「誰も荒町勝負言ってないし、しかもこれ細谷勘座右衛門の石碑に書かれてたのだから負ける気がしなかったんだ」  
「先生それずるくないかー？！」  
「だってそんなルール言ってなかったじゃないか！」  
そう提案した時点で勝負は見えていた、ルールをしっかりと決めたからするべきだった、しかも相手は大人、そしてあの仙人のことを知ってたし、あの仙人は達人、いろんな人に対して

「私負けましたわ」





連載ルポルタージュ

## その細い部分の扉を開けると何がある？ 三角柱の建物を訪ねる

文＝押野 緑

ワークショップ初回の、「ブラキムラ」でおなじみの木村浩二さんによる街歩き。

五橋通沿いの建物は三角形の建物がいくつかあるのですが、

なかでもちょっと気になる素敵な建物が。

宮沢賢治にも縁のある「仙台光原社」を訪ねました。

光原社の本店は、岩手県盛岡市の材木町にあります。初代当主の及川四郎氏は、盛岡高等農林（現岩手大学農学部）で宮沢賢治の1学年下の同窓生。今でこそ知らぬものはいない宮沢賢治ですが、実は生前に出版されたのは童話集「注文の多い料理店」1冊だけ。その出版のきっかけを作ったのが及川氏でした。またこの「光原社」という社名も、賢治の手によるものです。

碁盤の目のように整備された仙台の街を、まるで「たすき掛けのように」（木村浩二氏談）に走る五橋通。この通りと国分町通が交叉する角に、仙台光原社はあります。その建物の形は、ちょうど直角三角形定規のよう。しかも1階の外には、その細くなっている部分に引き戸があります。中がどのような造りになっているか尋ねるべく、常務取締役の及川陽一郎さんにお話を伺いました。

仙台店は1968（昭和43）年に開店。陽一郎さんは四郎さんのひ孫にあたり、仙台店はお父様が始められました。当時新築だったこの建物は貸事務所で、1階と2階が分かれており外階段が付いていました。それを丸ごと借り上げ、事務所として造られていた建物を盛岡の本店を手がけた棟梁が改装し、光原社らしい店舗にしました。看

板と鉄行燈は芹沢銈介氏のデザイン、さらに内装は「芹沢銈介の懐刀」といわれたアートディレクター秋山正氏によるものです。それに加え、建物を包む蔦が、季節ごとの味わいを醸し出してくれます。

取り扱っているのは、伝統の手わざが生み出した、日々の暮らしを豊かにしてくれるものたち。陶器を始め漆器、ホームスパン、南部鉄器、木の弦で編まれた籠、曲げわっぱ、全国の可愛い郷土玩具など、丁寧に長く使いたいものばかりです。

東北大学片平キャンパスや裁判所が近いこの立地ですが、物件を選ぶ際に、特に仙台のここという希望があったわけではないそうです。ただ、今でこそ街の賑わいはアーケード街や青葉通り、定禅寺通りですが、約50年前の当時は南町通りのほうが街の中心だったそうです。また店の前を市電が走っていました。今でこそ若干交通機関から離れた場所ではありますが、「裁判所前」と「一番丁中央郵便局」駅が近い立地でした。

「生まれた時からこの建物があったので、こういうものだと思っていましたが、三角形の建物はちょっと不便なところもあります。角がデッドスペースになってしまいますから。店舗のほうはい



三角形の建物が多い五橋通沿い



仙台光原社常務取締役の及川陽一郎さん



いんですが、倉庫に使っているところは、とんがっ  
ているところに物が置けません」と及川さん。

南東に面している店舗側は、1階は入り口、2  
階は窓になっており、差し込む光が店内を優しく  
包み込んでいます。一方の西側の「角」は、2階  
は及川さんの仕事部屋、その奥に給湯などの設備  
を備えた休憩室、そして一番先端の部分は収納に  
なっていました。「あまり物は入らななんですけど  
ね」とのことですが、想像以上に端まで無駄なく  
使われている印象でした。一方1階は、見せては  
いただけませんでした倉庫になっているそうで  
す。五橋通沿いに引き戸があるのも納得でした。

現在建物の隣が空き地になり、車が停められて  
いましたが、ここには昨年の4月まで「カラオケ  
スナック じゅら」と「コーヒーショップ 亜羅加  
留人」がありました。盛岡本店は敷地内に5つの  
建物があり、そのひとつ「可否館」は落ち着いた  
雰囲気のお茶店で、コーヒーや名物のくるみクッ  
キーを楽しむことができます。この場所にもあ  
いった喫茶店が出来れば、光原社と合わせて楽し  
めるのに…と、これは個人的な願望です。

2000年代初めの和雑貨ブームが起こり、日本  
民藝館の館長を企画・初代館長を務めた柳宗理さ

んが人気になり、「民藝」という美の概念に興味  
を持つデザイン系の若い人たちが増えました。そ  
の頃からお客様も「40～50代のうちの店として  
は比較的若い層」が増えたとか。学生の頃や若い  
世代、あるいはお子さんが食器を壊してしまう  
子育てファミリーの頃は、まだホームセンターや  
100均の食器を使うのかもしれませんが。でも少し  
時間に余裕が出来たら、毎日の暮らしのなかに  
光原社で扱っている製品を取り入れていくこと  
は、とても特別で素敵なことに思えます。漆のお  
椀でいただくご飯やお味噌汁は、味がほっくりと  
丸く、美味しく感じられます。

盛岡本店には行ったことがあるけれど、仙台店  
に行ったことがないという方も、ぜひ訪ねてみて  
ください。及川さんや本店のバイヤーたちが全国  
から買い付けた製品が、ひっそりこの不思議な  
建物のなかで手に取られることを待っています。  
(あの美味しいくるみのクッキーも売っています!)

サンモールを抜けて、ちょっと足を伸ばしてみ  
ませんか？

【仙台光原社】  
仙台市青葉区一番町一丁目4-10  
☎022-223-6674  
<http://kogensya.sakura.ne.jp/>



南東角。2階には「アメニモマケズ」のタペストリー



目利きのバイヤーが全国から集めた逸品ぞろい

## わたしの一冊 ③

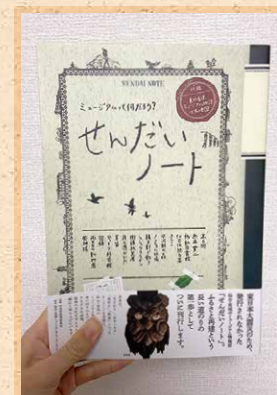


### 「みやぎ日帰り温泉 2021年度版」 プレスアート

こちらの本は、温泉を特集した雑誌みたいなものなんです  
が、仙台の温泉をいろんな観点いろんな場所でわかりやすく  
まとめているため、雑誌初心者の人でもすぐわかりやすい構  
図となっています。僕もこの中の温泉旅館のうち1つ行った  
ことがあるので予想しながら見ていただけたとなお良いと思  
います。ヒントは露天風呂がとても綺麗で自然が眺められる  
温泉です。また、日帰りなので観光に来た方々にもこの温泉  
行ってみたいと思わせる程の説得力がこの一冊にしっかり  
入っており、また、1つ1つの施設がこれでもかというほど丁  
寧に書かれているので、見てて妄想が膨らみ、膨らみすぎて  
破裂しそうで心配です笑

是非読んでみてください!!

(湯之上 龍ノ介)



### 「せんだいノート」 仙台市市民文化事業団

編集会議で教えていただいた一冊。地域の文化に関わ  
る濃い人たちを通し、様々な切り口で仙台・宮城の文化資  
源が紹介されています。正月飾りの「きりこ」、仙台市歴史民  
俗資料館の図録一覧、仙台伝統白菜が産んだ人の輪など。  
2011年3月末発行の予定が、東日本大震災で延期になり  
10月に刊行。震災前と変わってしまった箇所も貴重な記録  
として変更せず発行したそう。巻末の東北ミュージアム一覧  
は圧巻です。

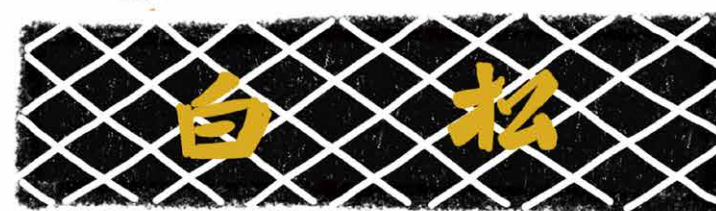
(竹永 絵里)



# 街の看板

「aBaiNN」制作メンバーによる、仙台のお気に入り＆面白い看板を集めてイラストにしました。あなたはいくつ見つけられますか？

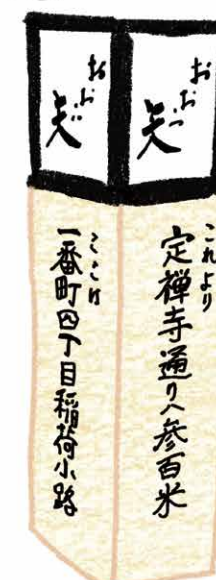
イラスト・竹永絵里







お茶なら  
やまざ





# 伊達家忍者集団 黒脛巾組と 太宰 治

文＝太宰徳夫

伊達家中に「黒脛巾組」という忍者集団がいたという説がある。政宗を題材にした小説や、ネット検索すると太宰金七なる人物がたびたび登場する。太宰と言えば太宰治。さて金七と治と私の関係やいかに？



## 序幕 何故こんなこと書いてんの？

ふつふつと湧き出る仙台歴史散歩プチ情報の数々。この雑誌編集に参加するきっかけにもなった木村浩二先生<sup>(1)</sup>のブラキムラ講座の聴講生となり、今では追っかけの日々。師匠からの伝授情報をさらに広げるべく1人古地図片手に街歩き、あれこれ集めた、何じゃこれ情報。この「センダイマガジンをつくろう！」企画会議に参加し、活かさんで何とすると鼻息荒くいざ出陣。まずは自己紹介をし、企画説明。集まったメンバーは皆さんプロか、もしくはセミプロの方々。こりゃ場違いだったかもと思いつつ、勇気を振り絞り手書きメモコピーを配り、あれこれ歴史散歩情報を説明するも、あれ？皆さん興味なさそう。プレゼン能力まるで無しの私。ところがウケ狙いでの自己紹介、太宰金七なる黒脛巾組忍者が私のご先祖様

かも？と太宰治の親戚かとよく聞かれまーすってところに皆様の関心が。その黒脛巾組って知らなかった、おもしろそう。それについてまとめ、何か書けば一の光線ビームの集中攻撃。色々な企画や情報は、他の人たちの企画に情報提供者として参加すればいいよ、とな。

## 第一幕 第一場 黒脛巾組と戸兵衛大明神

そんな訳で以下調査結果、黒脛巾組について。伊達政宗が創設したとされ、黒革製の脚絆をつけて、標章にしていたことから黒脛巾組と呼ばれたらしい。

「伊達秘鑑」<sup>(2)</sup>によれば、信夫郡烏屋城主、阿部対馬守重定に命じ、鼠になれる者50人を選び扶持を与え、これを黒脛巾組と号し、柳原戸兵衛<sup>(3)</sup>、世瀬蔵人を首長とす、とある。人取橋の合戦<sup>(4)</sup>

においては兵力差7千vs3万にて敗戦濃厚だったが、一夜開けてみると敵側連合軍は撤退。これはかの太宰金七さん「何か2大名は伊達と内通してて裏切っちゃうらしいよ」なんてフェイクニュースをあちこちで流したためと書かれている。

また首長の柳原戸兵衛さんのご子孫の鹿又武三郎氏は大正8年から2期8年間仙台市長を務めた方でなんと戸兵衛大明神を祭る社を西多賀に建立したらしい。

この神社、残念ながら今はない。何故？その後の戸兵衛神社の行方は。なくなってしまったその訳とは。

時はくだり平成28年に地域の歴史、文化等を学べる様にと西多賀今昔かるた、なるものができ「く」は「黒脛巾つけて活躍、鹿又戸兵衛」という札。これはおもしろいと早速、西多賀市民センターを訪ね調べてきた。「西多賀探訪記第4号」平成25年刊、の鈎取地区の神社の中に東原神社(俗称戸兵衛神社)の記載があり、西多賀4丁目の高台に鹿又戸兵衛を祀る小さな神社があったが、昭和37年に住居表示制度ができた時、東原地区に神社がなかったので東原神社として公園内に移転建造。神社の西100mの所には墓碑も建つとある。カルタはすぐ近くの団子屋さんで売っているというので、お団子と一緒に購入。カルタの裏の説明は大阪の陣で活躍した隠密集団。2代藩主忠宗公の時、鈎取東原に知行地を賜りました、とある(右図参照)。ところがカルタ作成の翌年の平成29年仙台市が地元住民に何の告知もなく宅地造成のため更地にしてしまうらしい。何ということでしょう！問題になり、市の定例議会でも質問出るも、市長さん答えられず、何たる失態。

## 第一幕 第二場 その他の黒脛巾組文献と私見

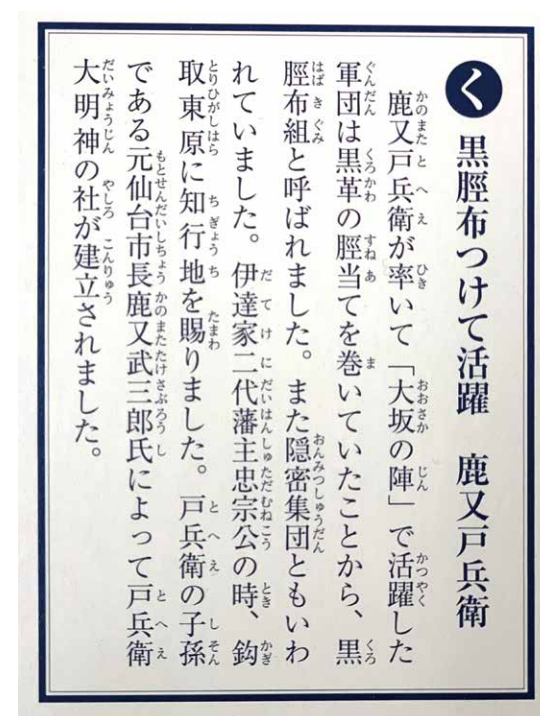
「老人伝聞記」<sup>(5)</sup>には力量、打ち物<sup>(6)</sup>に優れた者を選び黒脛巾組を作り、それぞれの土地に

詳しい者6人を組頭とし編成す、とある。

新井白石著「藩翰譜」<sup>(7)</sup>には天正18年、小田原征伐時、秀吉の動向を探索するため太宰金七なる忍びを小田原に潜入させていた、と記述あり。「秀吉はん、はんばないから、早く来た方がいいよ」と進言したとか。

だがこれらの資料はみな江戸中期以後に書かれたもので信憑性に疑いあり。要はよう解らんのです。まあ忍びの記録なのだから当然と言えば当然。記録を残さないことに関しては安倍さんも菅さんもしっかり踏襲してる？「このテープは5秒後に消滅する」<sup>(8)</sup>ってやつですね。

忍者と言えば服部半蔵。江戸城の門の名前で残ってますね。創作物では数え切れないほど。猿飛佐助に雲隠才蔵。隠密剣士<sup>(9)</sup>のとんべい。懐かしい。市川雷蔵「忍びの者」ちよー美男子。洋物では女王陛下の007。ショーンコネリー。やはりスパイは男前でないとダメなのね。運動神経抜群、記憶力、分析力に優れさらに忍耐力。命じられれば鼠さんになり、縁の下や天井裏でじっと耐



西多賀今昔かるた「く」の札の裏の解説



えとれって？いやいや、全て私には無理。金七さん家系じゃないな私。

## 第二幕 太宰治と私

さてお次は太宰治さん。

まだ若かりし頃、先輩に連れられお姉たまのいるお店などに行き「太宰」と名乗るとよく「青森の方？」とか「太宰治と関係あるの？」なんて聞かれ「抱っこしてもらってる写真あるよ」なんて言おうものなら、途端にモテたのでございましたヨ。でもね、知ってる人は知ってますよね。彼は津島修治さんでありますよ。「太宰治と仙台」なんて本もあり、終戦前後の太宰文学に大きな影響を与えたのは仙台だった。なんて書いてありますよ。今回はこれぐらい。

## 終幕 自己紹介

さてここからは、今調査中のご先祖様と私。興味のない方は次ページへ。ここまでお付き合い頂き感謝です。

ワタクシ生まれも育ちも県北のキワ、岩ヶ崎。小さいながらも城下町、伊達藩の「所」<sup>(10)</sup>。初代藩主は政宗の5男、宗綱<sup>(11)</sup>、ついで6男の宗信<sup>(12)</sup>。残念ながら2人ともに早逝し、その後様々なお殿様が交代し、元禄時代に中村氏に。その時に家老としてお供したのが私めのご先祖様でございます。この中村氏、世間ではあまり知られていないが、名門、一門。

菩提寺の過去帳には初代として太宰式部正長、天正元年没、とある。という事は天正年間にご活躍された金七さんとはどういうご関係だったのか？まあ直系でないことは間違いなさそう。結局、私は黒脛巾組とも太宰治とも関係なし！なのにここでも情報収集に汗水流して皆様のお役に立つべく情報提供しているのであります。つづく

### 注釈

(\*1)私の人生、第2の師匠。古地図散歩、ナビゲーターのカリスマ的達人。自称「永遠の60歳」キワ、段差、妄想大好きスタイリスト。段サー、ヌタバリストと呼ばれている。

(\*2)仙台藩、半田吉十郎道時(燕々軒)の著述により1770(明和7)年完成。35巻より成る。

(\*3)柳原戸兵衛と鹿又戸兵衛は同一人物と考えられる。県図書館所蔵、人名辞典による。情報提供、黒脛巾組研究の第一人者、NiNJA颯月氏。

(\*4)政宗の父、輝宗を拉致し、ともに射殺された畠山氏への弔い合戦。政宗が仕掛けるも、佐竹、芦名、岩城、二階堂、白河などが敵側に動き連合軍と敵対することになる。

(\*5)伊達政宗を中心とした軍談だが、著者不明。江戸中期のものと思われる。

(\*6)刀剣、薙刀など打ち合って戦うための武器。

(\*7)諸大名337家の由来と事績を集録し、系図をつけた江戸時代の家伝、系譜書。全12巻より成り1702(元禄15)年成立。第7巻、下に伊達家あり。

(\*8)1967(昭和42)年から日本で放映された米のTVドラマ「スパイ大作戦」のお決まりのセリフで大流行。映画「ミッション、インポッシブル」はTVドラマのリメイク版。

(\*9)1962(昭和37)年から放映された大瀬康一主演のTV時代劇。忍者ブームの火付け役となる。

(\*10)ところ。政宗が藩内を支配するため有力家臣に所領と館を与えた地方知行制。その拠点が城、要害、所。

(\*11)正室、愛姫の第3子。1603(慶長8)年生、1618(元和元)年没。

いと 幼けなき 人は見果てぬ夢かとよ

うつつ 現に残る 老の身ぞうき

散るとても みのり 御法をうる花の船

みぎわ 浮ひていたる 汀なるらん

と詠み政宗は悲しんだ。仙台、松音寺に葬る。

(\*12)側室、於山<sup>おやま</sup>の方の第1子。5男宗綱と同年、1603(慶長8)年生だが1627(寛永4)年没。岩ヶ崎、黄金寺に葬る。岩ヶ崎伊達家は後嗣<sup>あとつぎ</sup>なく断絶となる。



2020年11月1日、第1回目となる

「センダイ・マガジンをつくろう!」ワークショップが行われ、仙台の魅力を発見しよう!と、まち歩きに出かけました。参加者それぞれの視点が見つけたポイントをご紹介します。



大町から城を望む



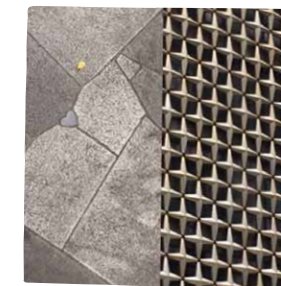
三角スペースはおもしろい



片平丁・謎のベンチ



奥州街道角



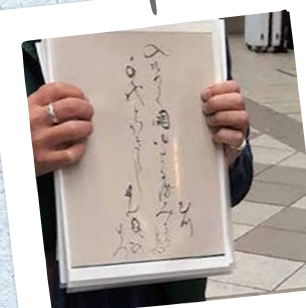
藤崎前・ハートと手裏剣を探せ!



サックス奏者に出会う



藤崎の段丘高低差を指す木村氏



政宗公が書いたもの



レトロな建物・西欧館

写真は全て、ワークショップ参加者のみなさんが撮ったものです



# 編集後記

「aBaiNN」制作メンバー総勢15名の編集後記。  
世代も個性も様々、仙台にゆかりのある人・ない人、本作りのプロ・素人等、とても面白いメンバーで制作しました。

湯之上龍ノ介

今回僕は回文団扇の小説を担当させていたんですが、色々と荒町のことや小説とは的かなことを知れて良かったです！またこーいふ機会があればぜひ参加させていただきたいです！

千葉富士男(編集長)

私は日本の歴史を大切に想い、文芸や音楽と写真、酒を愛し、自らの住む街に向け、もの書くライターではなく【ヒト・モノ・コト・街】に灯を着けるライター 足るを目指す。

中島敏男

今回、西公園とSLの思い出をaBaiNNの編集で整理することができました。街歩きでは「立ち止まる」ことの楽しさも学びました。皆さんの温かいサポートに感謝しております。

本江正茂

街歩きから始まった雑誌づくり。私は都市や建築が専門で、そっちの方は馴染みでしたが、皆さんの動きに伴走し、やってみると同じだなあとつくづく思った次第です。

永井由美子

本は大好きでよく歩きながらでも読んでる。(それって歩きスマホと同じ?) さっと未来の本のカタチはいまとは違うと思う。いろんな人と一緒に本を作りながら考えてみたい。

坂田邦子

メディアを研究しています。本がないと落ち着きません。街歩きは好きですが、体力はありません。長距離は無理です。天気の良い日は林檎が良いです。単純に見えて複雑です。

仲俣暁生

東京で編集と物書きと大学教員をしています。初日の街歩きからスタートして、あれよあれよという間に雑誌が出来上がっていくのを、驚きとともに見ていました。楽しかった！

太宰徳夫

祖父、父、兄、姪、弟、息子たち、みな歯科医。白歯馬鹿組(しろはばきぐみと読む)の自称、伊達男。情報収集は得意だが活かしきれない愚んだまの者。楽しかったです。

清水修

学術がもつワクワク感(groove)を社会に伝えるために編集者をやっています。今回は、ゼロから媒体を作り上げる皆様のパワーに圧倒されました。また作りましょう！

佐藤正実

仙台の原風景を観る、知るをテーマに出版業を営んでいます。顔合わせからフィニッシュまでを1ヵ月間でやってしまうという今回のチャレンジング企画。皆様、お疲れ様でした。

花井繁行

仙台に移って20年が過ぎ第二の故郷になり、終の住処となりました。

小林美香

デザインを担当させていただきました。参加者のみなさんの「仙台愛」を受け止めて、まとめていく作業は、とても楽しいものでした。

竹永絵里

今まで経験した本作りとは全く異なるメンバーとともに本を作れたことが何よりの収穫でした。「aBaiNN」を片手に仙台の街を巡りたいです。

押野緑

仙台は変化の激しい街です。10〜20年で街の様相が変わることもあります。地層のように埋まっていく街を知る人の言葉を拾い、変えてはいけないうちの大切さが伝わればと思います。

清水千佳

西公園を遊ぶプロジェクトの連絡係をしています。これまでと違う切り口の仙台を感じていただけたでしょうか？



# 「aBaiNN」 発刊にあたって

本誌aBaiNNは、「センダイ・マガジンをつくろう!」という呼びかけに応じた参加者によって、編集・製作された市民参加型の雑誌です。

「センダイ・マガジンをつくろう!」は、本と書店に関する研究プロジェクト「ほんと…プロジェクト」と、仙台で古地図などを出版している「風の時編集部」が共同で企画したワークショップ型の編集企画です。ワークショップは、11月の毎週日曜日(5回)に仙台市一番町にある老舗書店・金港堂で行われ、参加者8名、スタッフ7名の計15名が参加しました。

ワークショップでは、プロの編集者、デザイナー、研究者などのスタッフが講師となり、参加者が編集部となり、参加者独自の視点から、仙台の街を歩き見て、雑誌を企画・編集・刊行するという、全国でも珍しい試みとなりました。

参加者は、イラストレーターやお笑い芸人、歯科医、団体職員などバラエティ豊かな背景を持ち、年齢も20代から70代までと幅広い年代から集まりました。参加者それぞれの視点から、企画を提案、検討し、担当を決めて文章を書き、写真を集めました。参加者全員で、ラフを作り、台割を決め、本誌刊行に向けて、コンテンツを作り上げてきました。

本誌をお手に取って頂いた方に、多様な視点から切り取られた仙台の街に対する新たな気づきと、深い歴史を味わって頂き、収めきれなかったたくさんの風景や物語を感じて頂けましたら、編集部・スタッフ一同心より嬉しく思います。

ほんと…プロジェクト／東北大学情報科学研究科  
坂 田 邦 子

仙台に住んでいるけど、仙台を知らないあなたに。  
仙台は初めてだけど、ガイドブックでは物足りないあなたに。  
ここにしか書いていない、仙台のおはなし。

**a - bairn** (あ・ばいん)

仙台弁【自動詞】  
「一緒に行こう」とか「おいで」の意味。  
ex. ①「〇〇さん、一番町さ、あばいん」(〇〇さん、一番町へ行こう)  
②「こっちゃん、あばいん」(こっちにおいで)

## aBaiNN

編集／「aBaiNN」編集チーム  
千葉富士男、押野緑、清水千佳、竹永絵里、太宰徳夫、  
中島敏男、花井繁行、湯之上龍ノ介

ワークショップスタッフ／  
坂田邦子、佐藤正実、清水修、永井由美子、  
仲俣暁生、本江正茂

デザイン・DTP／  
小林美香(風の時編集部)

まち歩き案内／  
木村浩二(せんだいコンセキ発掘塾)

協力／  
厚綿広至(グラフィックデザイナー・絵図師・家紋姓氏研究家)

企画・製作／ほんと…プロジェクト、風の時編集部

発行／ほんと…プロジェクト  
withbooks2019@gmail.com

発行日／2021(令和3)年3月31日

助成／サントリー文化財団



